

**U  
R  
O  
K**

***SP-100***

デジタル・ピアノ



**取扱説明書**

# 安全上のご注意

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください



## 警告



本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

ACアダプターを使用する場合は、必ずAC100Vの電源コンセントにACアダプターを差し込んでください。

次のような場合には直ちに電源を切り、ACアダプター使用時はコンセントから抜きます。そして、コルグ営業所またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

ACアダプターの電源コードやプラグが破損したとき

異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき

製品が(雨などで)濡れたとき

製品に異常や故障が生じたとき



次のような場所での使用や保存はしないでください。

温度が極端に高い場所(直射日光のあたる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)

水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所  
ホコリの多い場所



修理 / 部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

ACアダプターのコードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。コードに傷がつき危険です。

本製品をヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程度の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。



本製品およびACアダプターを分解したり、改造したりしないでください。

## 注意



本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このため他の電気機器を接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆に他の電気機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ACアダプターをご使用になる場合は、必ず指定のものをご使用ください。他のアダプターをご使用になりますと故障の原因となります。また、使用後はACアダプターをコンセントから抜いてください。



スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。

外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。



ACアダプターをコンセントから抜くときは、絶対にコードを引っ張らないでください。故障の原因となります。

## データのリセット

本製品の電源をオフにすると、すべてのパラメータはリセットされます。録音した曲もメモリーから消えてしまいますので、注意してください。

MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

Sound Processed with INFINITY™.

# 目次

はじめに .....	103
1. パネル .....	104
フロントパネル .....	104
リアパネル .....	105
2. 基本操作 .....	106
接続する .....	106
電源を入れる .....	106
音量の調節 .....	106
音色の選択 .....	107
音色の組み合わせ .....	107
リバーブとコーラス .....	107
デモ演奏を聴く .....	108
トランスポーズ .....	108
ペダル .....	109
メトロノーム .....	109
3. レコーダー .....	112
録音しよう(メトロノーム無し) .....	112
録音しよう(メトロノーム入り) .....	113
再生しよう .....	113
4. その他の機能 .....	114
鍵盤のタッチ .....	114
ピッチの調整 .....	114
MIDI .....	115
5. 付録 .....	119
故障とお思いになる前に .....	119
仕様 .....	120

-----

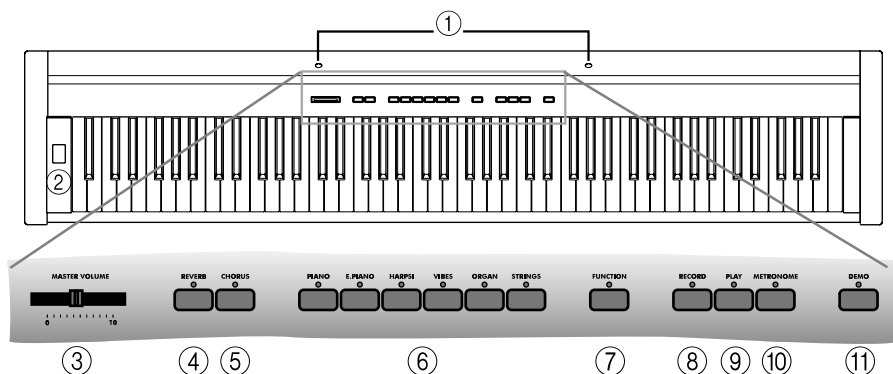
## はじめに

このたびは、コルグ デジタル・ピアノSP-100をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

SP-100を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。また、この取扱説明書は大切に保管してください。

## パネル

### フロントパネル



譜面立て用穴: 2つの穴に、付属の譜面立てを差し込みます。

パ ワ ー  
[POWER]スイッチ: 電源をオンまたはオフにするスイッチです。

注意: 本製品の電源をオフにすると、すべてのパラメータはリセットされ、録音された曲はメモリーから消えてしまいます。

マ ス タ ー ボ リ ュ ム  
[MASTER VOLUME]スライダー: 音量を調節します。

リ バ ー ブ  
[REVERB]スイッチ: リバースをオンまたはオフにします。

コ ー ラ ス  
[CHORUS]スイッチ: コーラスをオンまたはオフにします。

[音色セレクター]スイッチ: スイッチを1つ押すと、指定した1つの音色が選ばれます(シングル・モード)。2つのスイッチを同時に押すと、選択した2つの音色が選ばれます(デュアル・モード)。

フ ァ ン ク シ ョ ン  
[FUNCTION]スイッチ: トランスポーズ機能やチューニング機能の調節や、パラメータなどを設定するための多機能スイッチです。

<sup>レ コ ー ド</sup>  
[RECORD]スイッチ: スイッチを押すとこのスイッチのLEDが点滅し、録音待機状態になります。録音の方法は、「レコーダー」( P.112 )を参照してください。

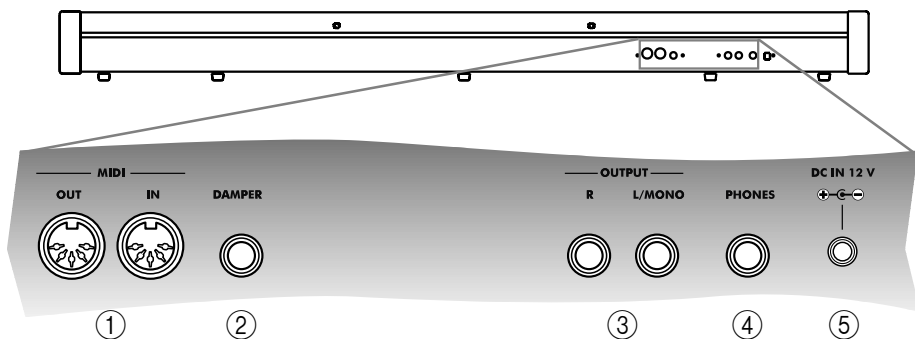
注意: 本製品の電源をオフにすると、すべてのパラメータはリセットされ、録音された曲はメモリーから消えてしまいます。

<sup>プ レ イ</sup>  
[PLAY]スイッチ: 録音した曲を再生します。

<sup>メ ト ロ ノ ー ム</sup>  
[METRONOME]スイッチ: メトロノームをオンまたはオフにします。[RECORD]スイッチのLEDが点滅しているときは、メトロノームのプリカウントです。1小節のプリカウント後に録音が始まります。

<sup>デ モ</sup>  
[DEMO]スイッチ: デモ・モードをオンまたはオフにします。デモ演奏を聴くときはオンにします。特定のデモ演奏を聴くときは、[音色セクター]スイッチ( )で選ぶことができます。

## リアパネル



MIDI端子: 外部のMIDI機器(シーケンサー、キーボードなど)を接続する端子です。

OUT: 外部MIDI機器のMIDI IN端子に接続します。

IN: 外部MIDI機器のMIDI OUT端子に接続します。

<sup>ダンパー</sup>

DAMPER端子: 付属のペダルをこの端子に接続します。

<sup>アウトプット</sup>

OUTPUT端子: オーディオ出力端子です。ここから外部のアンプに接続します。オーディオ機器に接続するときは、AUXまたはテープ入力端子を使います(PHONO入力端子は使わないでください)。

モノラルで接続するときは、L/MONO端子だけを使用してください。

<sup>ホーン</sup>

PHONES端子: ステレオ・ヘッドホンをここに接続します。

ACアダプター接続端子( DC 12V IN ): 付属のACアダプター( DC12V 500mA )をこの端子に接続します。必ずこの付属のアダプターを使用してください。

---

## 基本操作

### 接続する

SP-100をミキサー、オーディオ機器、またはアンプ内蔵スピーカーに接続するときは、SP-100の[OUTPUT]端子を使用してください。

オーディオ機器を接続する場合は、SP-100の[OUTPUT]端子と、オーディオ機器のAUXまたはテープ入力端子を使用してください(PHONO入力端子には接続しないでください)。

SP-100をモノラルで接続するときは、[OUTPUT]端子のL/MONO端子を使用してください。

### 電源を入れる

付属のACアダプターのプラグを本製品に接続してから、ACアダプターをコンセントに差し込みます。

その後に[POWER]スイッチを押してください。

電源をオンにすると、フロントパネルのLEDが点灯します。

電源をオフにするときは、再び[POWER]スイッチを押してください。

---

注意: 本製品の電源をオフにすると、すべてのパラメータはリセットされ、録音された曲はメモリーから消えてしまいます。

---

### 音量の調節

[MASTER VOLUME]スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと小さくなります。

最大が「10」で最小(無音)が「0」です。このスライダーによって、ヘッドホンとアウトプット端子の出力レベルを調節します。

---

注意: 初めは小さい音量で、だんだん大きくしてください。

---



## 音色の選択

[音色セクター]スイッチを1つ押すと、1つの音色が選ばれます(シングル・モード)。

スイッチ	音色
PIANO	アコースティックなステレオ・ピアノの音
E.PIANO	電子ピアノの音
HARPSI	クラシックなハーブシコードの音
VIBES	ジャズ系のビブラフォンの音
ORGAN	パイプオルガンの音
STRINGS	バイオリンなどの弦楽器のアンサンブルの音

ピアノとオルガンは、同時に16音まで出すことができます。その他の音色は、同時に32音まで出すことができます。ただし、デュアル・モードにすると、選んだ音色によっては同時発音数が少なくなります。

## 音色の組み合わせ

[音色セクター]スイッチを同時に2つ押すと、2つの音色が選ばれます(デュアル・モード)。

### デュアル・モード時の音量調節

2つの音色の音量バランスを調節するときは、[音色セクター]スイッチで行います。音量を小さくする音の[音色セクター]スイッチを押しながら、音量を大きくする音の[音色セクター]スイッチをくり返し押します。

## リバーブとコーラス

SP-100は、リバーブとコーラスの2つのエフェクトがあります。

リバーブは部屋の残響に似た効果があり、コーラスは音に広がりを与える効果があります。

リバーブをかけるときは、[REVERB]スイッチを押します。リバーブがかかるようになり、スイッチのLEDが点灯します。

コーラスをかけるときは、[CHORUS]スイッチを押します。コーラスがかかるようになり、スイッチのLEDが点灯します。

注意: 電源をオフにすると、エフェクトの設定はリセットされます。

これらのエフェクトは、あらかじめ音色ごとに設定されています。つまり、選択する音色で、使用するエフェクトが異なります。たとえば、[PIANO]ではリバーブだけがかかり、[E.PIANO]ではリバーブとコーラスの両方がかかります。

## デモ演奏を聴く

SP-100は、6つのデモ曲を内蔵しています。

1. [DEMO]スイッチを押します。

デモ曲が選べるようになり、すべての[音色セクター]スイッチのLEDが点滅します。

2. 2秒ほど後に、1曲目のデモ演奏がスタートします。

特定のデモ曲からスタートさせたいときは、2秒の待ち時間の間に、聴きたい曲を[音色セクター]スイッチで選びます。

デモ演奏は、選んだ曲から順番に再生され、演奏曲に対応する[音色セクター]スイッチのLEDが点滅します。

曲順	スイッチ	デモ曲
1	PIANO	F. メンデルスゾーン/プレリュード Op.104a-2
2	E.PIANO	G. パラディジー/トッカータイ長調
3	HARPSI	S. ジョブリン/RagTime
4	VIBES	J. S. バッハ/プレリュード 八長調
5	ORGAN	W. A. モーツァルト/ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」
6	STRINGS	コルゲ・オリジナル/Rubber Bob

3. デモ演奏を停止するときは、[DEMO]スイッチを押します。

デモ・モードから抜けます。

## トランスポーズ

音の高さを半音ずつ高くしたり低くしたりすることによって、トランスポーズ(移調)することができます。トランスポーズ機能を使うと、SP-100のキーを他の楽器のキーに合わせたり、黒鍵を多く使うような曲を簡単に演奏できるようになります。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。

スイッチのLEDが点滅します。

2. 移調したい高さ(低さ)に対応する鍵盤を押します。

トランスポーズ機能が働いて、[FUNCTION]スイッチのLEDは点灯します。



鍵盤	トランスポーズの設定
F#5 ~ B5	1 ~ 6半音低くなる
C6	基準音
C#6 ~ F6	1 ~ 5半音高くなる

- 元の音の高さに戻すときは、もう一度[FUNCTION]スイッチを押してください。  
スイッチのLEDが消灯します。

---

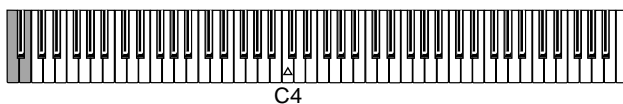
注意: 電源をオフにすると、トランスポーズの設定はリセットされます。

---

## ペダル

付属のペダルは、ダンパー・ペダルまたはソステヌート・ペダルとして使うことができます。電源をオンにした直後は、ダンパー・ペダルとして使用できます。ペダル機能(ダンパーまたはソステヌート)の選択は、以下の手順で行ってください。

- [FUNCTION]スイッチを押します。  
スイッチのLEDが点滅します。
- 鍵盤のA0またはB0を押して、ペダルの機能を設定します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。



鍵盤	ペダル機能
A0	ダンパー
B0	ソステヌート

ペダル機能がダンパーのときは、ダンパー・ペダルを踏むと、音が広がり、余韻のある豊かな響きになります。

ペダル機能がソステヌートのときは、ソステヌート・ペダルを踏むと、ペダルを踏む直前に弾いた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、ペダルを踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対して、ソステヌート効果はかかりません。

## メトロノーム

SP-100は、メトロノームが内蔵されています。

練習時や演奏を録音するとき、テンポや拍子の基準にすることができます。

メトロノームをスタート/ストップさせるときは、[METRONOME]スイッチを押します。

電源をオンにした直後は、メトロノームは♩=120に設定されています。テンポを調整するときは次の手順で行います。ただしデモ演奏のテンポは、演奏中に調整してください。演奏前にテンポを変更しても、デモ演奏が始まると、データにあらかじめ設定されているテンポで演奏されてしまいます。

## テンポの調整

[METRONOME]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押すたびにテンポは遅くなり、[PLAY]スイッチを押すたびにテンポは速くなります。

## テンポの選択

SP-100には、以下のように、あらかじめ10とおりのテンポが設定されています。  
[METRONOME]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押すたびにテンポは遅くなり、[PLAY]スイッチを押すたびにテンポは速くなります。

40 60 70 80 100 120 150 180 210 240

## テンポの指定

上記以外の細かいテンポを指定するときは、以下の手順で行います。

1. [METRONOME]スイッチを押し続けます。  
このスイッチは、手順4が終わるまで押し続けてください。
2. 鍵盤のB5を押します。  
B5は、鍵盤で数値入力できるようにするためのキーです。



鍵盤	数字	鍵盤	数字
B5	数値入力	C6	0
C#6	1	D6	2
D#6	3	E6	4
F6	5	F#6	6
G6	7	G#6	8
A6	9	B6	確定

3. 対応する鍵盤を押して、3桁の数字を選びます。  
2桁の数字のときは、まず「0」を選んでください。  
例：♩=168にするときは、C#6(1)、F#6(6)、G#6(8)の順に鍵盤を押します。  
また、♩=85にするときは、C6(0)、G#6(8)、F6(5)の順に押します。
4. 鍵盤のB6を押します。  
B6は、入力した数値を確定するためのキーです。
5. [METRONOME]スイッチを離します。

## ♩=120 に戻るとき

[METRONOME]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチと[PLAY]スイッチを同時に押します。

## 拍子の選択

メトロノームが鳴っている間に、[METRONOME]スイッチを押しながら、設定する拍子に対応した[音色セレクター]スイッチ( E.PIANO ~ STRINGS )を押します。

小節の1拍目にアクセント音が入ります。

アクセント音を入れないときは、[METRONOME]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチのPIANOを押します。

スイッチ	拍子
PIANO	アクセントなし
E.PIANO	2拍子( 2/4, 2/8 )
HARPSI	3拍子( 3/4, 3/8 )
VIBES	4拍子( 4/4, 4/8 )
ORGAN	5拍子( 5/4, 5/8 )
STRINGS	6拍子( 6/4, 6/8 )

## メトロノームの音量調整

メトロノームが鳴っている間に、[FUNCTION]スイッチを押しながら[RECORD]スイッチをくり返し押すと、音量がだんだん小さくなり、[FUNCTION]スイッチを押しながら[PLAY]スイッチをくり返し押すと、音量がだんだん大きくなります。

---

## レコーダー

SP-100は、レコーダーで曲を録音することができます。

録音した曲を再生しながら、一緒に鍵盤で演奏することもできます。また、メトロノームを使い、遅いテンポで録音し速いテンポで再生すると、難しい曲も録音できます。

---

注意: 録音できるのは1曲だけなので、すでに曲が録音されている場合、新たに録音をはじめると、以前のデータは消されてしまいます。また、本製品の電源をオフにすると、録音された曲はメモリーから消えてしまいます。

---

### 録音しよう(メトロノーム無し)

1. [音色セクター]スイッチで、音色を選択します。
2. [RECORD]スイッチを押します。  
レコーダーは録音待機状態になり、スイッチのLEDが点滅します。
3. 鍵盤で演奏してください。  
鍵盤を弾くと録音がスタートし、[RECORD]スイッチのLEDが点灯します。  
録音中に音色を変更するときは、[音色セクター]スイッチを押します。

---

注意: 録音中は絶対に電源をオフにしないでください。

---

録音領域のメモリー容量が少なくなると、[RECORD]スイッチのLEDが点滅しはじめます。メモリーの容量が無くなると、自動的に録音が停止し、[RECORD]スイッチのLEDが消灯します。

4. 演奏が終わったら、[RECORD]スイッチを押します。  
録音が停止し、スイッチのLEDは消灯します。

## 録音しよう(メトロノーム入り)

1. [音色セクター]スイッチで、音色を選択します。
2. [METRONOME]スイッチを押します。  
メトロノームのテンポ、拍子を設定するときは、「メトロノーム」(P.109)を参照してください。
3. [RECORD]スイッチを押します。  
レコーダーは録音待機状態になり、スイッチのLEDが点滅します。
4. 鍵盤で演奏してください。  
鍵盤を弾くと録音が始まり、[RECORD]スイッチのLEDが点灯します。

---

注意: 録音中は絶対に電源をオフにしないでください。

---

録音領域のメモリー容量が少なくなると、[RECORD]スイッチのLEDが点滅しはじめます。メモリーの容量が無くなると、自動的に録音が停止し、[RECORD]スイッチのLEDが消灯します。

5. 演奏が終わったら、[RECORD]スイッチを押します。  
録音が停止し、スイッチのLEDは消灯します。  
録音時に1小節のプリカウントを入れる場合は、手順3で、[RECORD]スイッチを押した後、[METRONOME]スイッチを押します。1小節のプリカウントのあとに、自動的に録音が始まります。

## 再生しよう

1. [PLAY]スイッチを押します。  
録音した曲がスタートし、スイッチのLEDは点灯します。
2. 曲の途中で停止するときは、もう一度[PLAY]スイッチを押します。  
曲が停止し、スイッチのLEDは消灯します。  
曲を最後まで再生すると、自動的に停止します。  
曲が停止すると、自動的に最初の小節に戻ります。  
再生時のテンポを変更するときは、曲の停止中に行います。「メトロノーム」(P.109)を参照してください。

## その他の機能

### 鍵盤のタッチ

鍵盤のタッチを3段階に変えることができます(タッチ・コントロール)。タッチを変えると、弾く強さによる音の強弱の度合いも変わります。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。  
LEDが点滅します。
2. 対応する鍵盤を押して、設定したいタッチ感を選択します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。  
電源をオンにした直後の鍵盤のタッチは、スタンダードです。



鍵盤	タッチ感
D2	ライト
E2	スタンダード
F2	ヘビー

### ピッチの調整

SP-100では、他の楽器と一緒に演奏するとき生じる、楽器間の微妙なピッチのズレが調整できます。±50セント単位(1セントは半音の100分の1)で調整できます。電源をオンにした直後のピッチは、基準値(A4=440Hz)です。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。  
LEDが点滅します。
2. 対応する鍵盤を押して、ピッチを設定します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。





鍵盤	ピッチ
B4	1セントずつ下げる
C5	基準ピッチ( A4=440Hz )
D5	1セントずつ上げる

3. [FUNCTION]スイッチを押します。

ピッチが設定され、スイッチのLEDが消灯します。

## MIDI

### MIDI(ミディ)とは?

MIDIはMusical Instrument Digital Interfaceの略です。これは電子楽器やコンピュータなどの機器の間で接続してデータのやりとりをするための、世界共通の規格です。

### MIDIで何ができるか?

MIDIを利用すると、SP-100から他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器からSP-100の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数のMIDI機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

### MIDIの接続

本製品のMIDI OUT端子と、他の機器のMIDI IN端子を接続します。MIDI IN端子どうし、MIDI OUT端子どうしで接続しないでください。

SP-100とコンピュータを接続する場合は、コンピュータ用のMIDIインターフェイス、シーケンスソフトや作曲ソフト、そして2本のMIDIケーブルが必要です。

SP-100のMIDI OUT端子とコンピュータのMIDI IN端子を接続します。またはSP-100のMIDI IN端子とコンピュータのMIDI OUT端子を接続します。

### MIDIの基本設定

電源をオンにした直後は、SP-100のMIDIパラメータは以下のように設定されています。

MIDIパラメータ	設定
送受信チャンネル	1
受信(16チャンネル)	オフ
ローカル	オン
オムニ	オン

## 送信/受信チャンネルを選ぶ

MIDIには、データのやりとりが可能な16のチャンネルがあります。SP-100とデータのやりとりをするには、どのチャンネルにデータを送受信するかを選ぶ必要があります。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。  
スイッチのLEDが点滅します。
2. 対応する鍵盤を押して、使うMIDIチャンネルを選択します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。



鍵盤	選択チャンネル
C3 ~ D#4	チャンネル1 ~ チャンネル16

## オムニ・オン/オフの設定

オムニ・オンに設定すると、どのMIDIチャンネルからもデータを受信できます。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。  
スイッチのLEDが点滅します。
2. 対応する鍵盤を押して、オムニ・オン/オフを設定します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。



鍵盤	オムニ・オン/オフ
E1	オフ(SP-100は1つのMIDIチャンネルだけを受信)
F1	オン(SP-100はすべてのMIDIチャンネルを受信)

## ローカル・オン/オフの設定

ローカル・オンでは、SP-100の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。ローカル・オフでは、SP-100を弾いても演奏の音は鳴らず、データだけを送信します。通常はローカル・オンに設定します。

SP-100をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえばSP-100をコンピュータと接続し、コンピュータと接続したMIDI機器(キーボード、音源モジュール等)で演奏するときは、本機をローカル・オフに設定します。SP-100は鳴りませんが、コンピュータと接続したMIDI音源で演奏されます。

SP-100を音源として使用する場合、たとえばSP-100をシーケンサーと接続して、

シーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定した場合、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときは、ローカル・オフに設定します。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。  
LEDが点滅します。
2. 対応する鍵盤を押して、ローカル・オン/オフを設定します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。



鍵盤	ローカル
A1	オン(鍵盤を押すとSP-100の音が出る)
G1	オフ(鍵盤を押すとSP-100の音が出ない)

## マルチ機能

SP-100は、MIDI端子を通じて、16チャンネル分のマルチのデータを同時に受信することができます。ただし、マルチ機能がオンのときは、デュアル・モードで演奏できません。

1. [FUNCTION]スイッチを押します。  
スイッチのLEDが点滅します。
2. 対応する鍵盤を押して、マルチ機能のオン/オフを設定します。  
[FUNCTION]スイッチのLEDが消灯します。



鍵盤	マルチ機能
B1	オフ
C2	オン

## プログラム・チェンジ

SP-100は、外部のMIDI機器から音色を選択することができます。

SP-100の音色を割り当てるチャンネルに、外部MIDI機器からMIDIプログラム・チェンジ・メッセージを送信します。SP-100は、プログラム・チェンジNo.を受信すると、以下の音色が選ばれます。

音色	プログラム・チェンジNo.
PIANO	000
E.PIANO	004
HARPSI	006
VIBES	011
ORGAN	019
STRINGS	048

---

## 付録

### 故障とお思いになる前に

ご使用中にトラブルが起こった場合は、次の事項を確認してください。それでも本製品が正しく動作しない場合は、販売店またはコルグ・サービスセンターへお問い合わせください。

#### 電源が入らない

ACアダプターが、ピアノとコンセントに正しく接続されているかどうかを確認してください。

#### 音が出ない

音量が0になっていないかを確認してください。

0になっていたら、適当なレベルまで音量を上げてください。

MIDIのローカル・オン/オフがオフになっていないかを確認してください。(P.116 参照)

MIDIのローカル・オフのときは、オンに切り換えてください。または、電源を一度切ってから再度オンにしてください。

#### 音がとぎれてしまう

本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリングし、分析、加工して作られています。音色によっては、1つの鍵盤を押したときにサンプリング・データの1つを鳴らす音色と2つを鳴らす音色があります。[PIANO]の音色は、サンプリング・データを2つ鳴らしますが、このような音色は、ダンパー・ペダルを踏んでいるときも含めて最大同時発音数が16音です。それ以外の音色では、最大同時発音数は32音です。この最大同時発音数を越えてしまったときに、音がとぎれてしまいます。

また、デュアル・モードで同時に2つの音色を鳴らすとき、サンプリング・データをいくつ使っているかによって最大同時発音数は異なってきます。たとえば、[PIANO]と他の音色を組み合わせると、同時発音数は10音になります。

#### 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

## 仕様

仕様	
鍵盤	88 鍵( A0 ~ C8 )
タッチ・コントロール	ライト、スタンダード、ヘビー
音源	最大同時発音数 32 音
音色	6 音色: ステレオ・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、 ハーブシコード、ピブラフォン、オルガン、ストリングス
エフェクト	リバーブ、コーラス
レコーダー	1トラック、最大 4,000 ノート、録音/再生
デモ演奏	6 曲
メロノーム	テンポ、拍子、音量
ペダル	ダンパー/ソステヌート
接続端子	オーディオ出力端子( L/MONO, R ), PHONES 端子、 MIDI 端子( IN, OUT ), DAMPER 端子
コントロール	[POWER]スイッチ、[MASTER VOLUME]スライダー、 [REVERB]スイッチ、[CHORUS]スイッチ、[音色セクター] スイッチ、[FUNCTION]スイッチ、[RECORD]スイッチ、 [PLAY]スイッチ、[METRONOME]スイッチ、 [DEMO]スイッチ
定格電源	DC12V( ACアダプター )
外形寸法( W x D x H )	1,365 x 278 x 116( mm )
重量	19kg
付属品	ACアダプター( DC12V 500mA $\oplus$ $\ominus$ ), ペダル、譜面立て

仕様は、予告なしに変更することがあります。

MIDI Implementation の配布については、コルグ・インフォメーションへお問い合わせください。